

# 若き、 附中

熊本大学教育学部附属中学校

学校だより

平成30年5月9日

第2号

《文責：高木》

## 機転を利かす

5月2日の夕方のことでした。上館本取で一年生が腹痛と吐き気で苦しんでいますと、三年二組の今村さんと三年四組の榎本さんが学校にかけこんできました。話を聞いた村田先生(三年学年主任)は、すぐにこの二人と車にのせ、上館本取にむかわれました。

すると、そこでは、とても苦しうにしている本校の生徒に、二人の看護学生さんが介護をしてくれている様子です。村田先生は、保護者に連絡をとり、苦しんでいる一年生を二人の三年生と共に附中の保健室までつれてこられました。私が保健室にいった



とき、二人の三年生は、一年生に声をかけたり、背中をさすったりしてくれていました。その後、保護者の方が学校に、これ病院へいき、この一年生も元気になったと報告をうけました。

ふりかえってみると、気分が悪くなつた生徒に対して、その場に居合わせて適切な処置をしてくれた榎本看護専門学校の二人の学生さん、そして、この判断

で学校へ走って連絡にきてくれたばかりか、その後もお世話をしてくれた二人の三年生に感謝せずにはいられません。すばらしい判断と行動力、そしてやさ

し、まさに機転を利かすとは、このことでしょうか。体調が悪くなつた生徒が、また元気になつてくれたこともうれしいですが、こんなにも

## 未知に挑む

二年三組 田中

「まず一步を踏み出す、そうすれば、次の一步は自然と前へ出る。行動することの大切さを教えてくれる言葉である。しかし未知の世界を前にして、足がすくむばかりの私にとって、その一步を踏み出すことは、長年の大きな課題であった。四月当初少し色あせた制服に袖を通すことに躊躇したのは、一年経っても何ら成長していない自分との間に隔たりを感じたからであろう。

そんな私が総代という大役を担うことになった。できるだろうかと心配するより先に、やらなければならぬことがおし寄せ、手探りで進みながらも、どうしたらもっとうまくクラスをまとめられるのか常に考えている自分と、曲がりなりにも大役を務めようとする私と、支えてくれる友人の存在に気づく。そして、そんな精一杯の日々が私に今までにない充実感を与えてくれている。一步踏み出すことが、私に新たな視界を開かせてくれたのである。

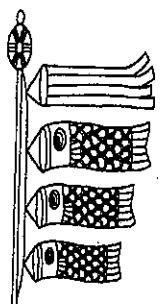


## 我家のスマホ約束事

先日、学校から配布しましたプリントをもとに、我家の携帯・スマートフォン等の約束事について、各御家庭で話し合っていたいただき、ありがとうございます。

親子で約束事を決めることは、親子を守ることに必要です。もちろんですが、親子で話し合うことが何より大切なことです。携帯やスマートフォンは、便利な機械ではありますが、犯罪の被害にあう危険性ばかりではなく、依存症になり生活のリズムをこわしたり、犯罪の加害者になり、たりする危険性もあるのです。

私達大人は、スマートフォンを買いあつた責任者として、しっかりと自覚する必要があるのです。



※ 5月9日(水) 天気は晴れ、今日から本格的に体育大会の練習のスタートです。朝練のあと、自主的に昇降口や階段のようじをしてくれる3年生の姿がありました。実にすばらしい、感動しました。